

トヨタディーラーの新入研修で植え、育て、収穫した新米を シングルマザー家庭に届ける社会貢献プロジェクト

いよいよ米の収穫をします！

日時：2025年9月26日（金）11時～15時

場所：大阪府豊能郡能勢町天王



■ 事業内容

当社は、新人研修の一環として過疎農地（大阪府豊能郡能勢町天王）で農業体験を実施し、収穫した新鮮な新米を、豊中市のシングルマザー家庭や子ども食堂に届けるという活動を実施しています。

米価高騰や子どもの貧困といった社会課題の解決に貢献して3年目、今年は5月に田植えを実施し、農家の指導をいただきながら、毎月草刈りや田んぼのメンテナンスをしてきました。

米の収穫日が9月26日に決定、その後精米をした新米をこども食堂に届けます。



田植え機の操作を学ぶ新入社員（2025年5月）

■ 事業を開始したきっかけとその目的

<きっかけ>

本プロジェクトの原点は、2022年に”大阪府のてっぺん”こと豊能郡能勢町天王地区で古民家を取得したことに遡ります。コツコツと古民家をリフォームをし、会議や集会で使えるような施設を作る目的で購入しました。当初、農業研修は全く想定していませんでした。

そこで村民から「先祖代々の農地を守りたいが、出ていった息子たちは戻らず、高齢化で農業を続けるのが辛い。協力するから農地を有効利用してほしい」との切実な相談が寄せられました。

これを受け、2023年から新入社員研修として米の栽培をスタート。過疎農地の活性化と、子どもの貧困対策をリンクさせるプロジェクトが動き出しました。

ところが、そこに至るまでの道のりは平坦ではありませんでした。このあとの「事業を行う中で苦労したこと」で説明をさせていただきます。

<目的>

当初、収穫した新米は店舗顧客への無料配布を予定していましたが、豊中市社会福祉協議会との対話で下記のような新たなニーズが明らかになりました。

「子ども食堂に寄付される米は古いものや品質の劣化したものが多く、新鮮な米が不足している」「学級閉鎖があれば子どもの昼食代にも困る家庭が多い」との声を受け、方針を変更。収穫したての新米を子ども食堂を通じてシングルマザー家庭に寄付することを決めました。

こうして、**新入社員研修の農業体験を通じて得た成果を、社会貢献に役立てる**という目的が定まったのです。



社会福祉協議会が開催する子ども食堂への頒布会で米を手渡し（2023年）

■ 事業を行う中で苦勞したこと

～担い手不足・耕作放棄地に困りつつも、村社会で受け入れられない『よそ者』地域の清掃活動などに積極的に参加、交流を通じて信頼を築くまで～

古民家を取得してから農業体験を実施するまでは、平坦な道のりではありませんでした。

能勢町天王は、典型的な日本の「村社会」です。長年にわたり、顔の見える信頼関係の中で暮らしが築かれてきました。**外部から訪れる「よそ者」への警戒心は強く、村の伝統やルールを重んじる意識**が深く根付いています。

過疎化が進む中、若者は都市部へと流出し、残された高齢者の方々が、細やかに農地を守り、山から湧き出る清流を大切にしながら生活を営んできました。

能勢町は、豊かな自然と伝統的な農村文化で知られ、棚田や栗林、歴史ある神社が地域の誇りです。しかし、人口減少や後継者不足により、かつての賑わいは薄れ、耕作放棄地が増えつつあります。

そんな天王にとって、企業の進出は、単なる変化ではなく、まるで自分たちの暮らしやアイデンティティを脅かす存在のように感じられたようです。

「**トヨタが何の目的でこんなところに来たんだ**」「**状況によっては山の水も使わせない**」との声が上がリ、周辺農地の利用を制限されたり、集会での説明を求められたりするなど、厳しい状況に直面しました。

集落の公民館に集まった村民の声には、深い不安と強い決意が込められていました。かつては子供たちの笑い声が響き、収穫の喜びを分かち合った集落も、今では祭りの担い手がなくなり、農作業の重労働を支える若者の姿も少なくなりました。そんな中で迎えた企業進出は、「**自分たちの居場所が奪われるのではないか**」という恐れを呼び起こしたのです。

弊社は村民との対話を重ね、地域の清掃活動や行事に積極的に参加。誠意ある交流を通じて信頼を築いていきました。

そんな中で、「私達は幼い頃から親に、田んぼだけは何があっても売ったらあかん、**先祖代々の農地を守っていくのがお前達の務めだ**と言われてきました」「**だが出ていった息子たちは戻らず、高齢化で農業を続けるのが辛い。農地を売るわけにはいかないの、協力するからなんとか農地を有効利用してほしい、若い人で賑わう活気のある村にしたい**」という村人の本音が聞けたのです。



こども食堂に新米を届ける新入社員（2024年10月）

■ 成果と実績

一昨年は120kg、昨年は200kgの新米を豊中市内のこども食堂に届けたところ、受け取ったシングルマザーから、たくさんの感謝の手紙をいただきました。

「特売の日に子どもが大好きな4個入りの薄皮パンを買うのですが2個残します。理由を聞いたら美味しいから明日に残してるねんと言われ、子どものいないところで泣きました。せめて大好きなお米をたくさん食べさせてあげたいと思います」

「暴力から逃げていることを忘れるほど、落ち着いた日々を過ごせています。食糧支援をしていただくことに感謝です。あともう一步、もう少し生きていこうと覆います」

「大げさではなく、私たちが命をつなぐことができているのはご支援いただいているみなさんのおかげです」

支援してくださる皆様へ

いつも美味しいお米や食料品などありがとうございますありがとうございます。

日に日に食欲旺盛になり、おかわり～と言っておかわりする事が増えました。特売の日に、子供が好きな薄皮パン(小さなパンが4つ入ってます)を買うのですが、2個食べて2個残してるから、食べないの？と聞くと美味しいから明日に残してるねん。と言いました。学校でお腹空くから4個食べて行き～。と言いましたが、普段買えない(買わない)から、大事そうに食べてる姿を見て、また買ったるからな～と言いました。

そんな日々が続き、子供の口から「俺んちは貧乏やからな」という言葉を聞いた時に、普段から貧乏と思われぬように必死で頑張ってきましたが、子供は貧乏と感じてたんだな～と子供の見えない所で泣きました。

せめて、大好きなお米をたくさん食べさせてあげたいと思う今日この頃です。

こども食堂利用者からの手紙（2023年12月）一部抜粋

社内ではこんなこともありました。

配属先で人間関係に悩み、出社できなくなった新入女子社員がいました。家から出ることも難しかったのですが、彼女はこの農業研修だけには笑顔で参加しました。その結果体調を取り戻して復職。現在は毎日元気に出社して、様々なプロジェクトリーダーとして頑張っています。最優秀新人賞も獲得しました。

研修を通じて「やっと会社の一員になった」と実感する中途入社社員もいます。

■ 今後の展望

能勢町の遊休農地はまだ無限の可能性を秘めています。米価高騰で苦しむ家庭、耕作放棄地に悩む農村を救うため、地元の企業に同じ挑戦を呼びかけたい」と思います。

過疎農地を多くの企業が借り、社員が汗を流して米を育て、貧困家庭に届ける――このモデルが地域に広がれば、**食料自給率の向上、農村の活性化、子どもの笑顔が連鎖します。**

想像してみてください。都市部の企業の社員が過疎農村の田んぼに集い、たくさんの笑い声が響き合う光景を。収穫した新米が、シングルマザーの食卓に温かいご飯を運び、子どもたちの「美味しい！」が響く瞬間を。

今秋、当社の新入社員が植え育て収穫した新米が豊中市で笑顔を咲かせるその時、地元の企業が来年、新たな田んぼで第一歩を踏み出すーそんな未来を、このプロジェクトは描きます。



【企業概要】

社名：ネットヨタニューリー北大阪株式会社

本社所在地：大阪府豊中市稲津町2-4-1

設立年月日：1961年3月 資本金：5千万円 従業員数：150名

HP：<https://www.netznewly.co.jp/>

【報道機関からの問合せ先】

ネットヨタニューリー北大阪株式会社 広報室

担当：山本一夫（やまもとかずお） TEL：06-6863-0611 /080-5776-7207

メールアドレス：kzy0320sky@gmail.com

【取材について】

当日撮影できることについて

ヒト：研修中の新入社員、お世話になっている能勢町天王の農家さん

モノ：農業体験風景（米の収穫）

場所：取得した古民家、圃場、農地

9月26日（金）の新人研修では、収穫の様子、担当者の情熱、地元農家との絆、貧困家庭への思いを取材いただけます。ぜひ報道でお伝え下さい。



古民家住所：大阪府豊能郡能勢町天王193

ネットヨタニューリー北大阪